

通信機は **7979-D**



STANDARD.

V&UHF WIDE BAND
COMMUNICATION
RECEIVER

AX700B

取扱説明書



日本マランツ株式会社

V&UHF WIDE BAND COMMUNICATION RECEIVER

AX700B

このたびは、FMレシーバーをお買上げいただきまして誠にありがとうございます。

本機は、弊社の厳重な品質管理及び検査のもとに生産、出荷されていますが、万一ご不審な点、お気付きの点などが、ありましたら、なるべくお早目にお買上いただいた販売店あるいは弊社営業所、サービスセンターへお申し付けください。

本機の性能を十分発揮し、末永くご愛用いただく為にご使用のまえに、この取扱説明書を最後までよくお読みくださるようお願い致します。

本製品は外国為替及び外国貿易管理法の規定により戦略物資等（又は役務）に該当しますので、日本国外に輸出をする場合には、同法に基づき日本国政府の輸出許可が必要となります。

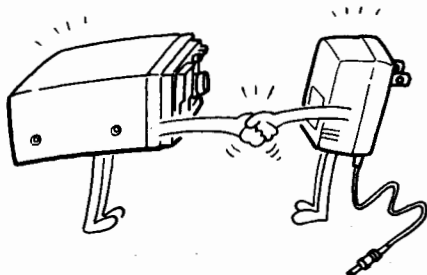
目次

ご使用の前に.....	2	メモリーした周波数を全て連続的に呼び出す方法.....	18
梱包図.....	2	メモリー周波数の変更方法.....	19
各部の名称および動作.....	3	メモリー周波数の消去方法.....	20
電源の接続およびアンテナの接続方法.....	8	メモリー呼び出し周波数を、そのままVFO周波数にする方法.....	20
操作手順.....	9	メモリーした周波数の中から特定の周波数をスキャンするには.....	21
初期状態.....	9	特定の周波数範囲を自動的にサーチして聞きたい周波数を選び出す方法.....	23
操作ボタンの働き.....	9	サーチ動作について.....	23
主なバンドの受信方法.....	10	サーチ動作使用例.....	23
FM放送の受信方法.....	10	サーチ動作例	
アマチュアバンドの受信方法.....	11	(アマチュアバンドをサーチする方法).....	24
パーソナルバンドの受信方法.....	12	周波数範囲の設定方法	
マリンバンドの受信方法.....	12	(スタート周波数およびエンド周波数).....	24
エアーバンドの受信方法.....	13	サーチ動作の方法.....	25
TV放送(音声のみ)の受信方法		周波数範囲の変更方法	
(周波数一覧表).....	13	(スタート周波数の変更方法).....	26
便利な操作方法.....	14	(エンド周波数の変更方法).....	27
バンドスコープを使って周波数を設定する方法.....	14	周波数範囲の消去方法.....	28
アマチュアバンドを受信する方法.....	14	その他の機能.....	29
バンドスコープについて.....	15	周波数の自動補正について.....	29
バンドスコープの受信周波数帯域幅の切り換え方法.....	15	故障とお考えになる前に.....	30
受信頻度の高い周波数をスピーディーに呼び出すには.....	17	定格.....	31
周波数をメモリー回路にメモリーする方法.....	17	保証・アフターサービスについて.....	32

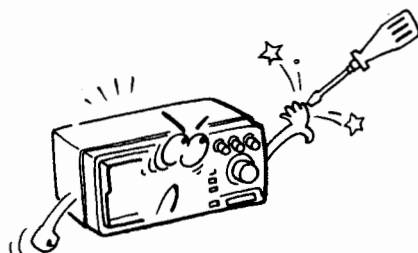
ご使用前に

● 僕を次のことから守ってください。

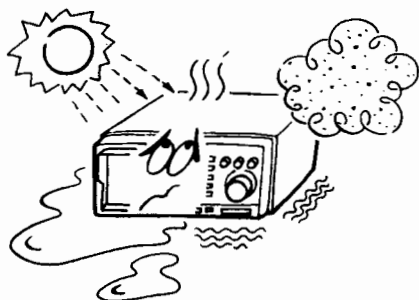
- 1** 電源は、AX700B専用ACアダプターをご使用ください。付属以外のACアダプターは、絶対使用しないでください。故障の原因になります。



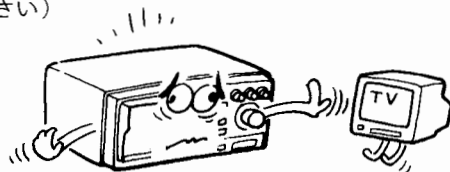
- 3** 分解したり、内部の部品に絶対触らないでください。故障の原因になります。



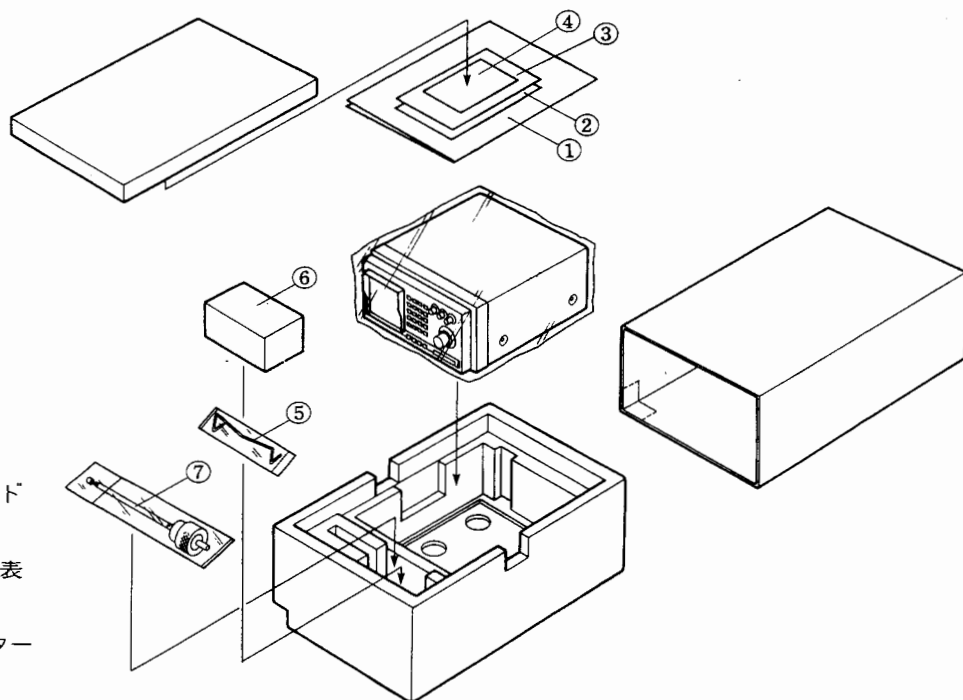
- 2** 高温、多湿、ホコリの多い場所および振動の激しい場所でのご使用は、避けてください。



- 4** チューナーやテレビなど、他の機器に影響を与えるような時、または、影響を受ける時は、それらの機器より離してご使用ください。
(ワープロおよびパソコン等の影響を受ける時は、それらの機器から離して使用してください)



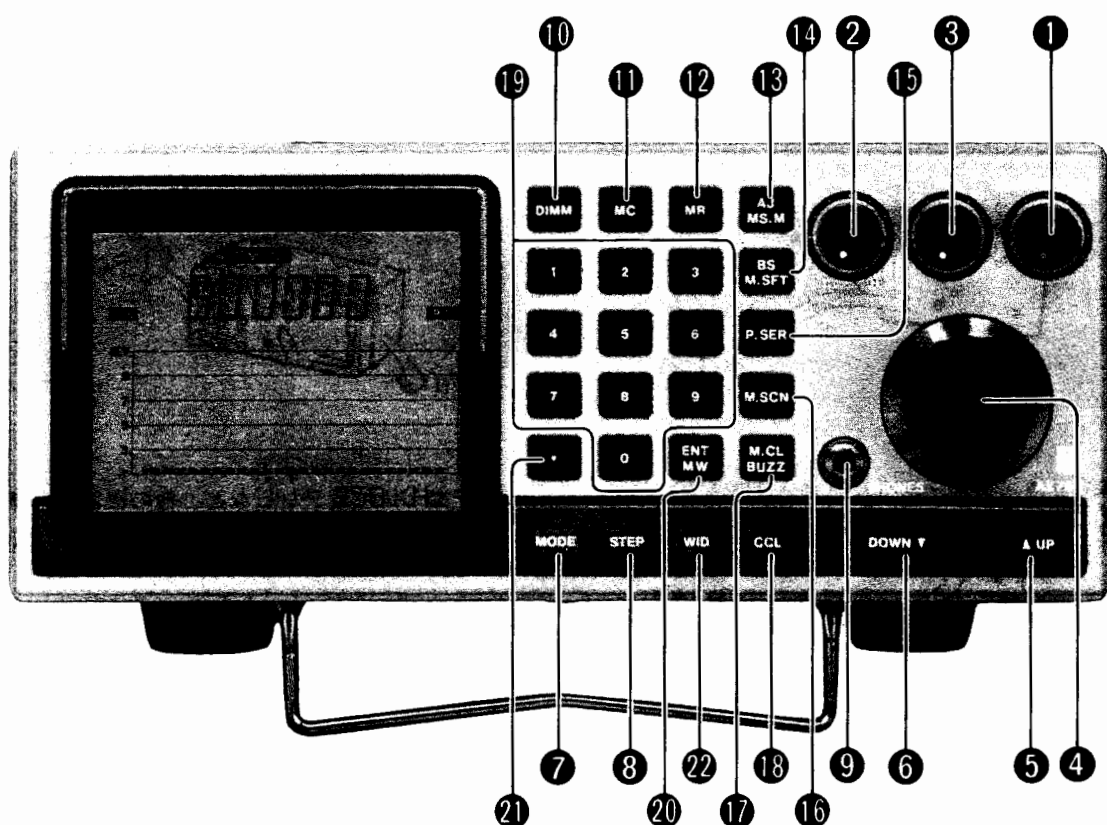
梱包図 開梱しましたら、付属品の確認をしてください。



付属品

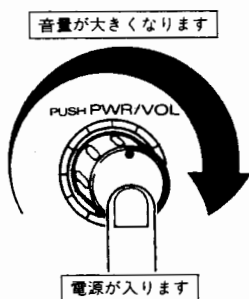
- ① 取扱説明書
- ② 愛用者カード
- ③ 保証書
- ④ 営業所一覧表
- ⑤ スタンド
- ⑥ ACアダプター
- ⑦ アンテナ

各部の名称および動作



① PUSH PWR/VOL (電源スイッチ/音量ツマミ)

電源のON/OFFと音量調節をするツマミです。このツマミを押すと電源がONになりもう一度押すとOFFになります。また時計方向に回すと音量が大きくなり、反時計方向に回すと音量が小さくなります。



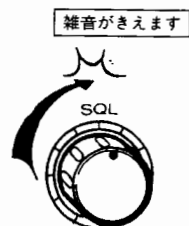
② TONE(音質調整ツマミ)

スピーカーからの音質を調節するツマミです。時計方向に回すと高音が強調されます、反時計方向に回すと低音が強調されます。通常は中央の位置にしてご使用ください。



③ SQL(スケルチツマミ)

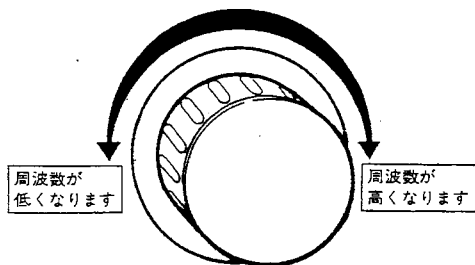
FM特有のザーと言うノイズ音を消すツマミです。本機では、FM-N(ナロー)とAMの各モードで有効です。尚、FM-W(ワイド)の時は、後面のW-MUTEを調整します。弱い電波を受信する時は、反時計方向に回し切ってください。



通常は、ザーと言うノイズ音がでなくなるまで、時計方向に回してください。時計方向に回し過ぎると、弱い電波が受信できなくなりますので、時計方向に回し過ぎないでください。

④ ロータリーチャンネルセレクトーツマミ

希望の周波数に合わせるツマミです。
時計方向に回すと周波数が高くなります。反時計方向に回すと周波数が低くなります。
表示部にMが表示されている時回すとメモリアドレス番号を順次呼び出します。

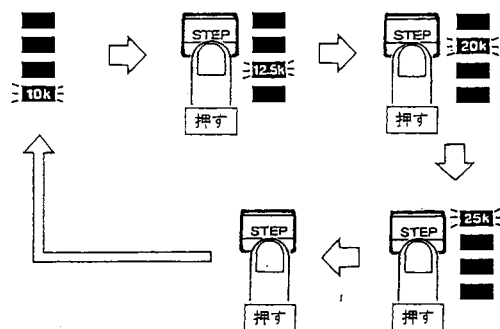


⑧ STEP(ステップボタン)

周波数の変化量(チャンネルステップ)を変えるボタンです。

ロータリーチャンネルセレクトーツマミを1回まわした時変化する量または、UP/DOWNボタンを一回押した時変化する量をチャンネルステップと言います。

本機では、10kHz、12.5kHz、20kHz、25kHzの4段階と1kHz(AJ動作時)及び5kHz(AJ動作時のUP/DOWNキー)の6種類設けられています。

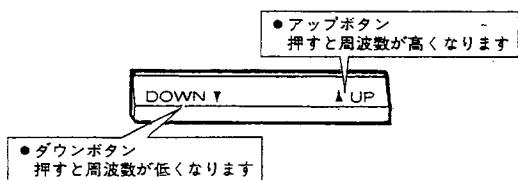


⑤ UP(アップボタン)

ボタンを押すと周波数に変化(高い方に)します。
押し続けると連続して周波数に変化(高い方に)します。
表示部にMが表示されている時押すとメモリアドレス番号を順次呼び出します。

⑥ DOWN(ダウンボタン)

ボタンを押すと周波数に変化(低い方に)します。
押し続けると連続して周波数に変化(低い方に)します。
表示部にMが表示されている時押すとメモリアドレス番号を順次呼び出せます。



⑦ MODE(モードボタン)

受信したい周波数のモードに合わせるボタンです。
MODEボタンを押す毎に順次、次の3種が表示部に表示されます。

モードは3種類あります。

FM-W—FM放送、TV放送(音声のみ)を受信する場合

FM-N—アマチュア無線、マリンバンド等を受信する場合

AM—エアーバンド等を受信する場合

⑨ PHONES(ヘッドホン端子)

市販のモノラルヘッドホンあるいは、イヤホンを接続する端子(3.5mmジャック)です。

⑩ DIMM(ディマーボタン)

表示部の明るさを2段階に変えるボタンです。
一度押すと暗くなり、もう一度押すと元の明るさになります。

(工場出荷時は、明るい状態に設定されています)

⑪ MC(メモリーチェンジボタン)

メモリーされた周波数を変更する時使用するボタンです。

メモリー呼び出し状態の時、このボタンを押すと表示部にMemory Change. Start Change. またはEnd Change.のいずれかが表示されメモリー周波数の書き換え状態を示します。

周波数の書き換え状態の時は、数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクトーツマミUP/DOWNボタンで周波数を変更できます。

12 MR(メモリーリコールボタン)

メモリー呼び出し状態にするボタンです。

このボタンを押すと、表示部にメモリーアドレス番号とMが表示され、メモリー周波数呼び出し状態になります。

アドレス番号とは周波数をメモリーする場所をいいます。

AX700は、メモリーアドレス番号00から99まで100種類の周波数をメモリーすることができます。

13 AJ/MS.M(周波数微調整およびメモリースキャン・メモリーボタン)

VFO状態の時押すと、表示部にAJが表示されロータリーチャンネルセクターツマミ操作時は、1kHzステップで周波数が変化します。

また、UP、DOWNボタン操作時は5kHzとなり表示部左側のチャンネルステップ表示が消えます。

メモリー呼び出し状態の時押すと、メモリースキャン・メモリー周波数の設定および解除ができます。(メモリー呼び出し状態の時のみMS.M動作します)

メモリースキャン・メモリー周波数とは、メモリーされている周波数の中から優先的にスキャンさせる周波数をいいます。

14 BS/M.SFT(バンドスコープボタンおよびメモリーシフトボタン)

VFO状態の時押すと、バンドスコープモードになります。もう一度押すと元のVFO状態になります。

バンドスコープモードは、バンドスコープを使用して受信周波数を設定する方法です。

メモリー呼び出し状態の時押すと、メモリー呼び出しをした内容がそのままVFO状態になります。

(メモリー呼び出し状態及びサーチスキャン動作の時のみM.SFT動作します)

15 P.SER(サーチボタン)

サーチ動作のボタンです。

VFO状態の時押すと、表示部にNormal Sear.およびPOが表示され、表示されている周波数から全周波数をサーチします。(工場出荷時の場合)

また、MRボタンを押した後にこのボタンを押すと、サーチ周波数の設定、変更および消去ができます。

16 M.SCN(メモリースキャンボタン)

このボタンを押すと、表示部にMemory Scan.が表示され、メモリーアドレス番号を連続してスキャンします。但し、メモリーされていないアドレス番号は、スキップします。

アドレス番号に何もメモリーされていない時は、無効(ブザー音)となります。

17 M.CL/BUZZ(メモリークリアーボタンおよびブザーボタン)

VFO状態の時押すと、ブザー音のON/OFFができます。(工場出荷時は、ON(音がでる)に設定されています。)

ボタンを押した時ブザー音がした時は、ブザー音がON、ブザー音がしない時はOFFの状態になります。

メモリー呼び出し状態の時押すと、メモリーした内容を消すことができます。

(メモリー呼び出し状態の時のみM.CL動作します)

18 CCL(キャンセルボタン)

メモリー呼び出しモード、バンドスコープモード、P.SERモード、M.SCNモードを解除するボタンです。

数字ボタンによる周波数設定も解除します。

19 0-9(数字ボタン)

周波数設定およびメモリーアドレス番号呼び出しボタンです。

数字ボタンを押す毎に表示部にその数字が表示されます。

メモリー呼び出し状態の時は、メモリーアドレス番号の呼び出しを行います。

20 ENT/MW (エンターボタンおよびメモリーエンターボタン)

数字ボタンで周波数設定途中このボタンを押すと以後の数字が“0”となり、同時に周波数設定が完了します。

使用例：

① ④ ④ □ ENT ……表示部に144.000.0が表示されます。

メモリー呼び出し状態の時は、メモリー周波数、モード、チャンネルステップ、バンドスコープの周波数範囲の書き込みを行うボタンです。

21 □ (数字ボタンで周波数を設定する場合のMHz用ボタン)

数字ボタンで周波数を設定する時のボタンです。

例：84.700MHzを数字ボタンで設定する場合
ボタンを押す順序

⑧ ④ □ ⑦ ① ① ①

22 WID (バンドスコープの周波数範囲を3段階に設定するボタン)

バンドスコープの周波数範囲を約1000kHz、約250kHz/260kHz、及び約100kHzの3段階にかえることができます。

後面

23 REC (録音端子)

テープレコーダーに録音する場合は、この端子とテープレコーダーのMIC端子を接続してください。なお詳細については、テープレコーダーの取扱説明書をお読みください。

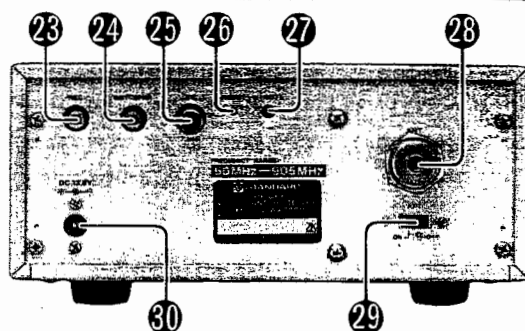
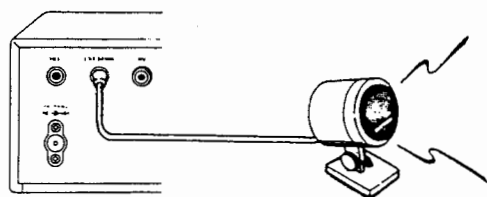
出力レベルは、約30mV/100kΩです。

プラグは、直径3.5mmのものをご使用ください。

24 EXT. SPKR (外部スピーカー端子)

外部のスピーカーを使用される場合は、この端子に別のスピーカー(8オームのもの)を接続してください。

プラグは、直径3.5mmのものをご使用ください。



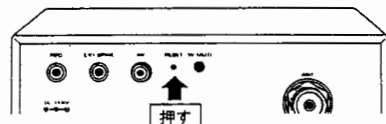
25 8V (DC 8V 出力端子)

DC 8V (最大40mA)が取り出せる出力端子です。絶対他の電圧は加えたり、ショートさせないでください。故障の原因になります。

26 RESET (リセットボタン)

表示部の表示が異常の時(マイコンが誤動作した時)または、内蔵されていますバックアップ用リチウム電池を交換した時はこのボタンを押してください。

RESET



注意

このボタンを押すと、既にメモリーしてある内容は全て消されます。

27 W-MUTE (ワイドミュートボリューム)

FM-Wモード時のミュートボリュームです。(工場出荷時は、ミュートされた状態になっていますのでそのままご使用ください)

信号を受信していない周波数では、スピーカーからザー音がします。このザー音を消すボリュームです。

先の細いマイナスドライバーを真っ直ぐそっと入れて調整してください。反時計方向に回し切るとザー音がします、ゆっくり時計方向に回しザー音がしない所にしておいてください。

注意

1. この調整は、信号のない所で行ってください。
2. 時計方向に回し過ぎると、弱い信号が受信できないことがあります。
3. ザー音がしている状態では、スキャン動作およびサーチ動作しませんので必ずザー音を消した状態にしてください。

28 ANT (外部アンテナ接続端子)

付属のアンテナを接続するM型端子です。この端子のインピーダンスは50オームです。

29 ATT (アッテネータースイッチ)

通常はOFFの位置でご使用ください。

強力な信号を受信しスピーカーからの音が歪んで聞こえるような時は、スイッチをONにしてご使用ください。(約20dBの減衰量になります)

30 DC 13.8V

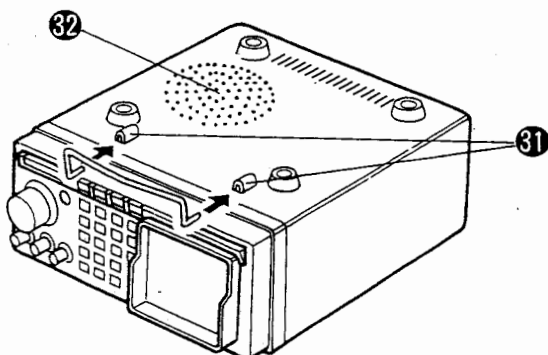
AX700B付属の専用ACアダプターを接続する端子です。

付属の専用ACアダプター以外は、絶対使用しないでください。故障の原因になります。

31 スタンド取り付け穴

付属のスタンドを取り付ける穴です。

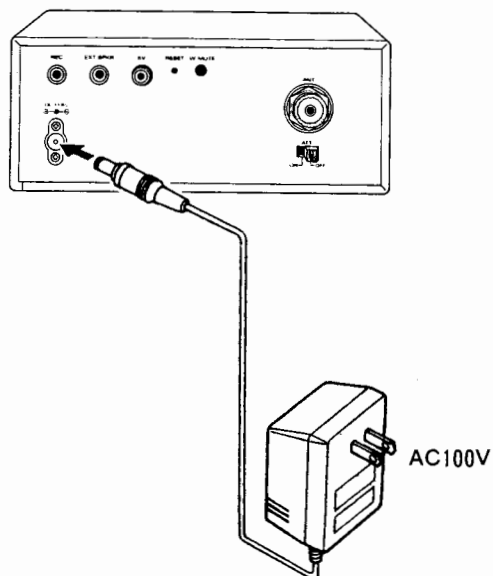
図のように取り付けてご使用ください。

**32 内蔵スピーカー**

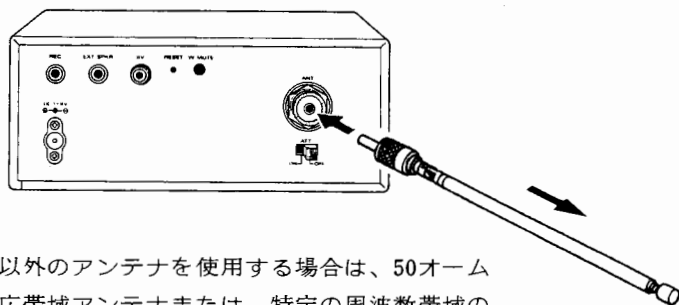
AX700B本体に内蔵されている、スピーカーです。

電源の接続及びアンテナの接続方法

- 1** 付属のACアダプターをAX700BのDC13.8Vの端子に接続します。



- 2** 付属のロッドアンテナをANT端子に接続します。ネジ込み式になっています。
付属アンテナは、周波数に応じて伸ばしてご使用ください。



付属以外のアンテナを使用する場合は、50オーム系の広帯域アンテナまたは、特定の周波数帯域のアンテナをご使用ください。

操作手順

梱包からAX700Bを出しましたら、付属のアンテナとACアダプターおよびスタンドを取り付けてください。

初期状態について

1. 購入されて初めて電源をONにしますと、表示部は下記のような表示(初期状態)になります。

周波数表示: 50.000.0
周波数ステップ: 10kHz
バンドスコープ表示: 1000kHz
モード: FM-N
スキャン方式: P.S

この状態を初期状態といえます。

アドバイス

後面のリセットボタンを押すと、ピーというブザー音がして初期状態の表示になります。

尚、リセットボタンを押すとメモリーされた内容が全て消されますのでご注意ください。

注意

本機は右記の周波数を受信しても、音声が出ない仕様になっています。

2. ツマミの初期状態

PUSH PWR/VOL: 反時計方向に回し切っています。

SQL ツマミ: 反時計方向に回し切っています。

TONE ツマミ: 反時計方向に回し切っています。

3. 各ツマミを調整してください。

① **PWR/VOL** ツマミを押し、電源をONにしてください。

② **PWR/VOL** ツマミを時計方向に回し、ザー音が聞きやすい音量にしてください。

③ **SQL** ツマミを時計方向にゆっくり回し、ザー音がきえた所で回すのを止めてください(**SQL**調整)

以上で受信準備ができました。手順に添って操作してください。

音声が出ない周波数

252.496～255.505MHz	411.496～415.505MHz
261.496～266.505MHz	809.496～834.505MHz
270.496～275.505MHz	859.496～889.505MHz
379.496～382.505MHz	

操作ボタンの働き

ボタン名	VFO状態の時押した場合	メモリー呼び出し状態の時押した場合
AJ/MS. M	チャンネルステップを1kHzおよび、5kHzにする	メモリースキャン・メモリーの設定および解除
BS/M. SFT	バンドスコープモードの設定および解除	メモリー周波数をVFO周波数に書き換える
P. SER	サーチ動作の設定、および一時停止	サーチ開始周波数およびエンド周波数の設定
M. SCN	メモリースキャン動作の設定および一時停止	無効です
M. CL/BUZZ	ブザー音のON/OFF	メモリー周波数の消去
MC	無効です	メモリー周波数の変更
数字ボタン 0-9	周波数の入力	※メモリーアドレス番号の呼び出し ※メモリー周波数変更状態の時は、周波数設定
•	周波数設定時のMHz設定	無効です。メモリー周波数変更状態のときはMHz設定
ENT/MW	周波数設定	メモリー周波数の書込み
MR	メモリー呼び出しの設定	メモリー呼び出しの解除
UP/DOWN	周波数の設定	※メモリーアドレス番号の呼び出し ※メモリー周波数変更状態の時は、周波数設定
MODE	モードの設定	※サーチ動作の時は、スキャン方式の変更
STEP	チャンネルステップの変更	無効です
WID	バンドスコープの受信周波数帯域の変更	無効です
CCL	無効です	コマンドキャンセル (メモリー呼び出し状態からVFO状態にする) メモリー周波数変更状態の時は、メモリー周波数に変更状態に入る前の状態に戻ります。

主なバンドの受信方法

1. FM放送の受信方法

手順

- ①MODEボタンを押して、表示部にFM-Wを表示させます。
このボタンを押す毎にFM-W、FM-N、AMと繰り返し表示されます。
- ②数字ボタンで、お近くのFM放送局の周波数にあわせてください。

FM横浜の場合：

- ⑧ 4 0 7 0 0 0の順でボタンを押します。
最後の0を押し終わるとピー音がして設定が完了したことを知らせます。
- ③設定が完了と同時にFM放送がスピーカーより聞こえてきます。

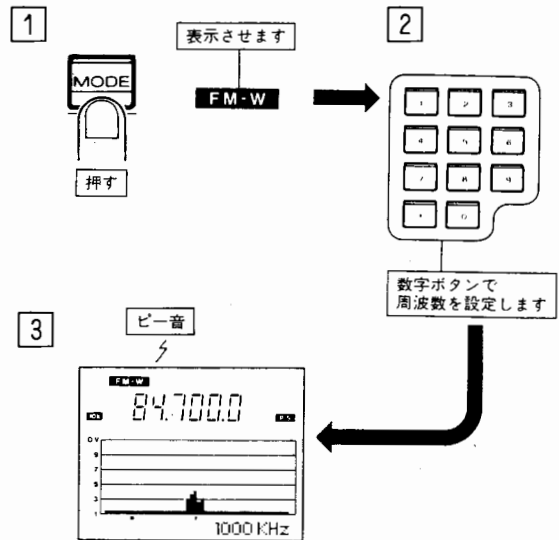
注意

周波数設定時、最初に押すボタンは0以外の数字にしてください。
数字ボタンの0を押すとブーというブザー音がして操作を受け付けません。

アドバイス

1. ロータリーチャンネルツマミを回して周波数を合わせることもできます。また、UPおよびDOWNボタンを使って周波数を合わせることもできるので用途に合わせてご使用ください。
(バンドスコープ機能を使って周波数合わせもできます。14ページ参照)
2. 正確に放送局の周波数に合わせる時は、AJ/MS. Mボタンを押してロータリーチャンネルセレクトツマミであわせてください。
表示部の10kHzの表示が消え、AJが表示されチャンネルステップが1kHzになります。

周波数設定が完了しましたら、もう一度AJ/MS. Mボタンを押して元のチャンネルステップに戻しておいてください。



AJが表示部に表示されている時に、UPおよびDOWNボタンを押すと5kHzのチャンネルステップで周波数が変化します。

- ④途中で周波数設定を止める時は、CCLボタンを押してください。
設定前の周波数に戻ります。

注意

FM放送を受信する場合は、FM-Wが表示部に表示している状態にしてください。

アマチュアバンドの受信方法

144MHz帯を受信する場合

手順

- 1 MODEボタンを押して、表示部にFM-Nを表示させます。
- 2 STEPボタンを押して、表示部に20kHzを表示させます。
チャンネルステップが20kHzになります。
STEPボタンを押す毎に10kHz、12.5kHz、20kHz、25kHzと繰り返し表示されますので、受信するバンドにあわせてお選びください。
- 3 数字ボタンで周波数を設定します。

145.000MHzを受信する場合

- 1 4 5 . 0 0 0 0 の順でボタンを押します。

439.520MHzを受信する場合

- 4 3 9 . 5 2 0 0 の順でボタンを押します。

最後の0を押すと、ピーというブザー音がして、設定が終わったことを知らせます。

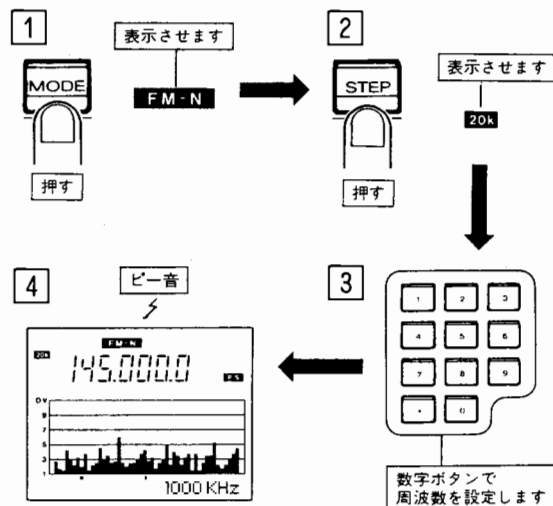
注意

FM放送およびTV放送(音声のみ)以外のFM信号を受信する場合は、表示部にFM-Nを表示しておいてください。

50MHz帯のAM信号を受信する場合

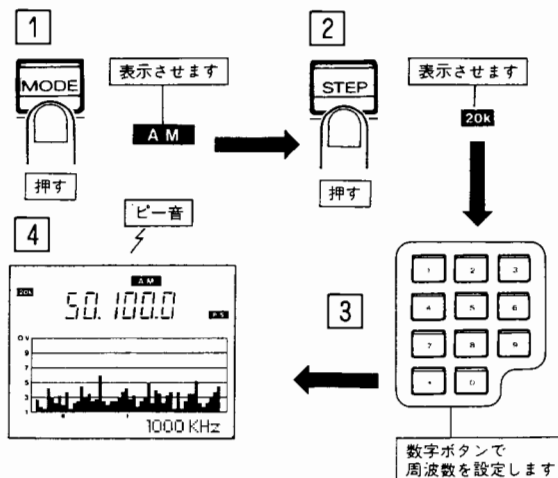
手順

- 1 MODEボタンを押して、表示部にAMを表示させます。
- 2 STEPボタンを押して、表示部に20kHzを表示させます。
チャンネルステップが20kHzになります。
- 3 数字ボタンで周波数を設定します。
5 0 . 1 0 0 0 の順でボタンを押します。
最後の0を押すと、ピーというブザー音がして、設定が終わったことを知らせます。



アドバイス

1. アマチュアバンドの周波数は下記の通りです。
50MHz帯: 50.000MHzから 54.000MHzまで。
144MHz帯: 144.000MHzから 146.000MHzまで。
430MHz帯: 430.000MHzから 440.000MHzまで。
2. アマチュアバンドを受信する時は、チャンネルステップは20kHzに設定しておいてください。

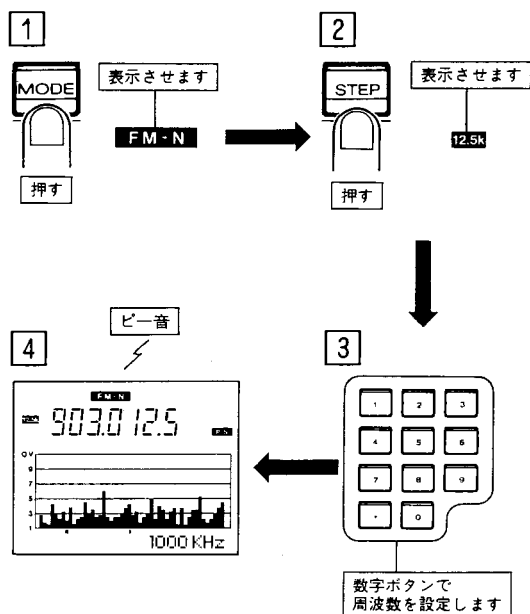


パーソナルバンドの受信方法

パーソナルバンドの周波数は、903.0125MHzから904.9875MHzまでです。

手順

- ①MODEボタンを押して、表示部にFM-Nを表示させます。
- ②STEPボタンを押してチャンネルステップを12.5kHzにします。
- ③数字ボタンで周波数を設定します。
 $\boxed{9} \boxed{0} \boxed{3} \boxed{\cdot} \boxed{0} \boxed{1} \boxed{2} \boxed{5}$ の順でボタンを押します。
 最後の数字 $\boxed{5}$ を押すと、ピーというブザー音がして、設定が終わったことを知らせます。

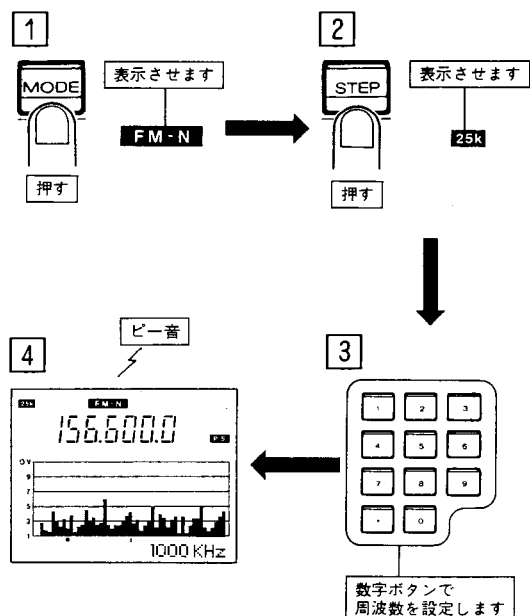


マリンバンドの受信方法

マリンバンドの周波数は、156.025MHzから163.275MHzまで、国際的に周波数が固定されています。

手順

- ①MODEボタンを押して、表示部にFM-Nを表示させます。
- ②STEPボタンを押して、表示部に25kHzを表示させます。
 チャンネルステップが25kHzになります。
- ③数字ボタンで周波数を設定します。
 $\boxed{1} \boxed{5} \boxed{6} \boxed{\cdot} \boxed{0} \boxed{0} \boxed{0}$ の順でボタンを押します。
 最後の数字 $\boxed{0}$ を押すと、ピーというブザー音がして、設定が終わったことを知らせます。



エアバンドの受信方法

エアバンドの周波数は、118.000MHzから135.990MHzまでです。

手順

①MODEボタンを押して、表示部にAMを表示させます。

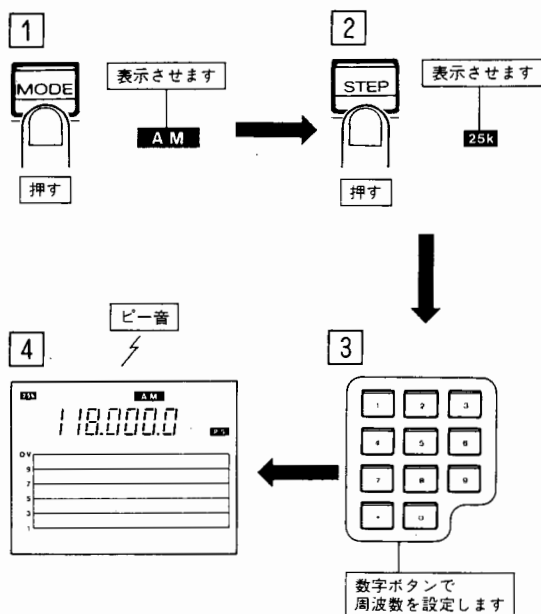
②STEPボタンを押して、表示部に25kHzを表示させます。

チャンネルステップが25kHzになります。

③数字ボタンで周波数を設定します。

1 1 8 . 0 0 0 0 の順でボタンを押します。

最後の数字0を押すと、ピーというブザー音が出て、設定が終わったことを知らせます。



TV放送(音声のみ)の受信方法

TV放送(音声のみ)の周波数は、95.750MHzから769.750MHzまでです。

手順

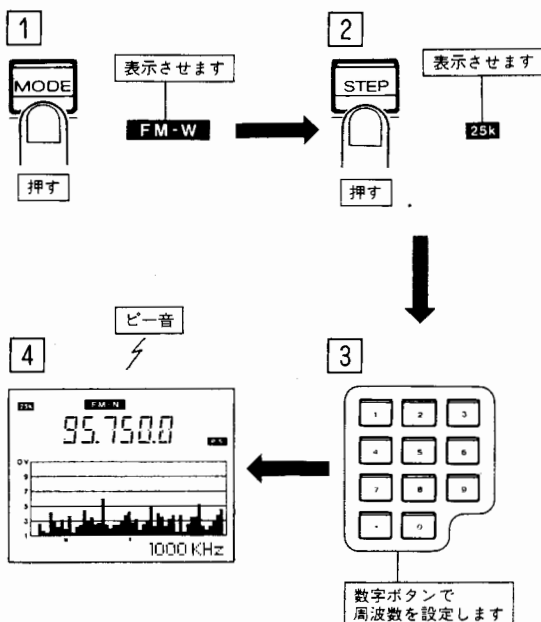
①MODEボタンを押して、表示部にFM-Wを表示させます。

②STEPボタンを押して、表示部に25kHzを表示させます。

チャンネルステップが25kHzになります。

③数字ボタンで周波数を設定します。

TV放送(音声のみ)周波数は、下記の通りです。



チャンネル	音声周波数(MHz)	チャンネル	音声周波数(MHz)
1	95.75	32	589.75
2	101.75	33	595.75
3	107.75	34	601.75
4	175.75	35	607.75
5	181.75	36	613.75
6	187.75	37	619.75
7	193.75	38	625.75
8	197.75	39	631.75
9	203.75	40	637.75
10	209.75	41	643.75
11	215.75	42	649.75
12	221.75	43	655.75
13	475.75	44	661.75
14	481.75	45	667.75
15	487.75	46	673.75
16	493.75	47	679.75
17	499.75	48	685.75
18	505.75	49	691.75
19	511.75	50	697.75
20	517.75	51	703.75
21	523.75	52	709.75
22	529.75	53	715.75
23	535.75	54	721.75
24	541.75	55	727.75
25	547.75	56	733.75
26	553.75	57	739.75
27	559.75	58	745.75
28	565.75	59	751.75
29	571.75	60	757.75
30	577.75	61	763.75
31	583.75	62	769.75

便利な操作方法

バンドスコープを使って周波数を設定して受信する方法

数字ボタンおよびロータリーチャンネルツマミで周波数を設定する方法以外にもバンドスコープを使った周波数の設定方法があります。

バンドスコープとは、ある周波数範囲の中での、信号の有無を目で見ることが出来る装置のことです。

アマチュアバンドを受信する方法

手順

1. 144MHz帯の場合は、呼び出し周波数の145.000.0を表示部に表示させます。
2. BS/M. SFT ボタンを押すと、バンドスコープ上部中央にカーソルが表示されます。
3. バンドスコープ上に現われた黒く上下する所にロータリーチャンネルツマミまたは、UP/DOWN ボタンでカーソルを移動します。
カーソルを移動すると表示部下にあるカーソルも上部のカーソルと同期して動きます。
(表示部の周波数表示は変化しますが、受信している周波数は変化しません。)
センターマークとカーソルがずれると、MHz、およびkHz台のドットが点滅します。
センターマークとカーソルが一致すると、MHz、およびkHz台のドットが点灯します。
4. ENT ボタンを押すとカーソルを移動した所の周波数に設定され、且つその周波数がセンターマークに移動し、周波数表示も設定された周波数になります。
各バンドを上記の要領で周波数が設定できます。

アドバイス

1. BS/M. SFT ボタンを押してバンドスコープ状態から、VFO状態に戻る方法

元の周波数に戻る方法

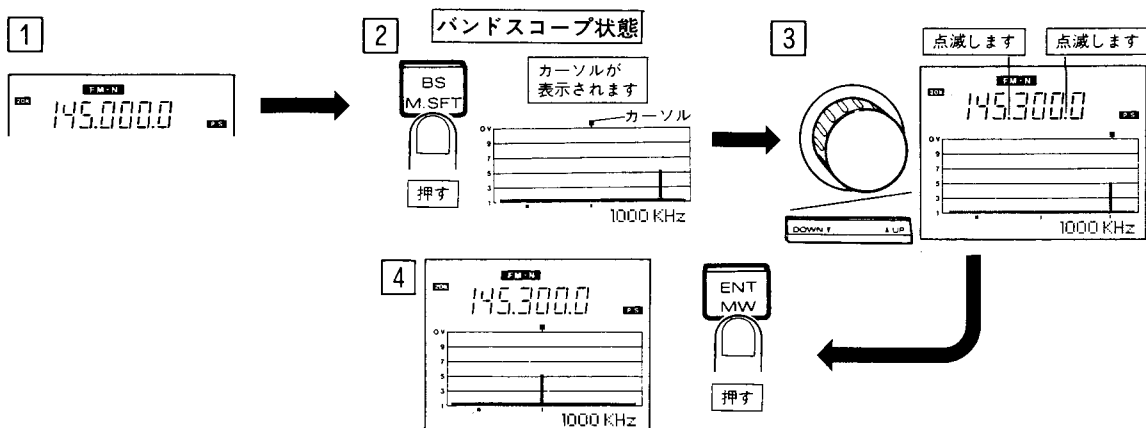
- 1) バンドスコープ状態から
- 2) 周波数を変化させる
- 3) CCL ボタンを押す
- 4) 元の周波数に戻る

現在、受信している周波数のまま戻する方法

- 1) バンドスコープ状態から
- 2) 周波数を変化させる
- 3) BS/M. SET ボタンを押す
- 4) 現在、受信している周波数のままVFOに戻る

2. 新しく設定した周波数にする方法

- 1) バンドスコープ状態から
- 2) 周波数を変化させる
- 3) ENT ボタンを押す
- 4) 新しい周波数に設定されます

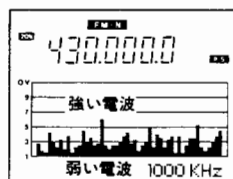


バンドスコープについて

バンドスコープとは、ある周波数範囲の中での、信号の有無を目で見る事ができる装置のことです。AX700Bでは、約1000kHz、約250kHz、(約260kHz)、約100kHzの受信周波数帯域幅の中に幾つの信号が有るかを目で見ることができます。

信号を受信するとバンドスコープ上の目盛り1からOVに向かって黒い線が上下しますので信号の有無が即座に確認できます。

上下する量は信号の強さに比例します。即ち1からOV近くまで上がった場合は、強い信号ということになります。



表示部に1000kHzと10Kステップが表示されている時は、430.000.0kHzを中心として-490kHzから+500kHz内にある電波がバンドスコープ上に表示されます。

注意

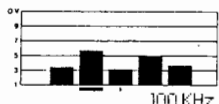
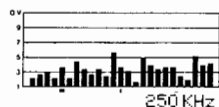
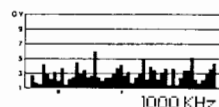
バンドスコープに信号が有ることが表示されていても音声が出ないことがあります。(9ページをご参照ください)

バンドスコープの受信周波数帯域幅切り換え方法

手順

- 1) 受信周波数帯域幅を変える時は、WIDボタンを押します。

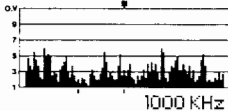
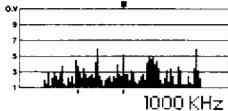
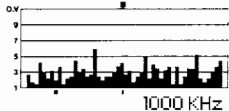
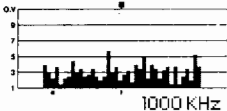
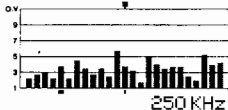
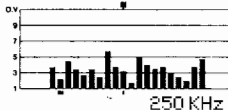
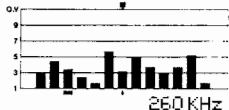
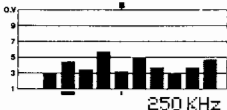
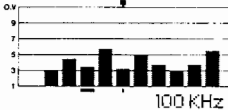
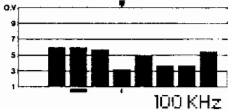
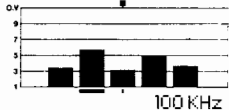
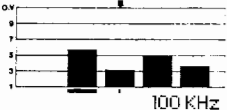
WIDボタンを押す毎に、表示部右下の表示が1000kHz、250kHz、100kHz、250kHz、1000kHzと繰り返し表示されます。あまり信号の多くないバンドを受信する場合は、1000kHzにてご使用ください。



注意

- 1) チャンネルステップが20kHzの時は受信周波数帯域幅が260kHzになります。
- 2) バンドスコープには、チャンネルステップごとの信号が表示されるので、チャンネルステップ間にある信号は表示されません。

バンドスコープ帯域幅及び表示スタイル

		受信周波数ステップ			
		10kHz	12.5kHz	20kHz	25kHz
バンド スコープ 受信 帯域 幅	1000kHz	X-490.0kHz～ X+500.0kHz 100本 (100dots) 1dots スペース 0dots 	X-487.5kHz～ X+500.0kHz 100本 (100dots) 1dots スペース 0dots 	X-480.0kHz～ X+500.0kHz 100本 (100dots) 2dots スペース 0dots 	X-475.0kHz～ X+500.0kHz 100本 (100dots) 2dots スペース 0dots 
	250kHz 260kHz	X-120.0kHz～ X+120.0kHz 25本 (100dots) 3dots スペース 1dots 	X-112.5kHz～ X+125.0kHz 20本 (80dots) 3dots スペース 1dots 	X-120.0kHz～ X+120.0kHz 13本 (91dots) 5dots スペース 2dots 	X-100.0kHz～ X+125.0kHz 10本 (90dots) 7dots スペース 2dots 
	100kHz	X-40.0kHz～ X+50.0kHz 10本 (90dots) 7dots スペース 2dots 	X-37.5kHz～ X+50.0kHz 8本 (88dots) 9dots スペース 2dots 	X-40.0kHz～ X+40.0kHz 5本 (80dots) 13dots スペース 3dots 	X-25.0kHz～ X+50.0kHz 4本 (76dots) 15dots スペース 4dots 

注記 Xは受信周波数

受信頻度の高い周波数をスピーディーに呼び出す方法

スキャン機能を使用します

受信頻度の高い周波数を予めメモリー回路にメモリーしておくことにより、スピーディーに希望の周波数を呼び出すことができます。

周波数をメモリー回路にメモリーする方法

使用するボタンは、MR、ENT/MWおよび数字ボタン、ロータリーチャンネルツマミおよびUP/DOWNボタンです。

手順

アマチュアバンドの周波数145.000MHzをメモリーアドレス番号09にメモリーしてみましょう。

①受信周波数145.000を表示部に表示します。

数字ボタンを次の順に押します。

① ④ ⑤ ① ① ① ① ① ① 0 を押し終わるとピーというブザー音がします。

②受信モードを設定します。

(MODEボタンでFM-W、FM-NまたはAMに)
MODEボタンを押し、アマチュアバンドの場合は、FM-Nを表示部に表示します。

③チャンネルステップを設定します。

(STEPボタンにて)

アマチュアバンドの場合は、20kHz(20kHzステップ)を表示部に表示します。

④バンドスコープの受信周波数帯域を設定します。

(WIDボタンにて)

WIDボタンで1000kHzを表示部に表示します。

AX700Bには、00から99(アドレス番号)までの100種類の周波数をメモリーできるメモリー機能があります。周波数をメモリーしたアドレス番号を指定することにより、希望周波数が呼び出せます。

アドバイス

③と④は初期値のままでも可能です。

以上の内容がメモリー回路にメモリーされます。

⑤MRボタンを押します。

表示部にMxxが表示部されます。

(××は任意の数字です)

この状態をメモリー呼び出し状態といいます。

周波数がメモリーされていないアドレス番号の時は、Mが点滅します。

周波数がメモリーされているアドレス番号の時は、Mが点灯します。

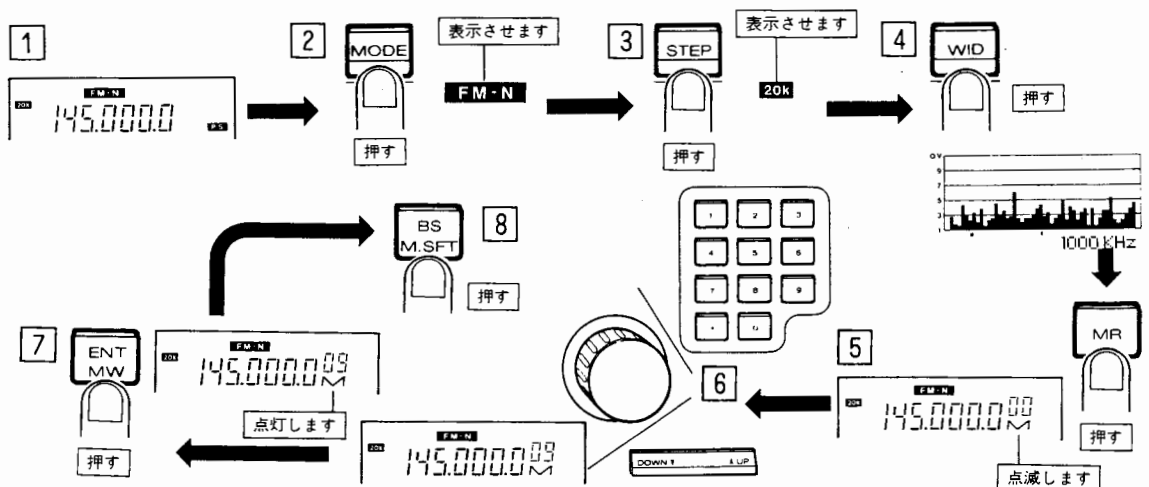
⑥アドレス番号を指定します。

アドレス番号09空アドレスにメモリーする場合は、数字ボタンまたはロータリーチャンネルセレクトツマミおよびUP/DOWNボタンで09を表示してください。

アドレス番号は、数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルツマミ、およびUP/DOWNボタンで自由にかえることができます。

⑦ENT/MWボタンを押すとピー音がしてメモリー周波数の書き込みが終わったことを知らせます。

⑧BS/M.SFTボタンを押してください。メモリーされた周波数の状態でVFO状態になります。



メモリーした周波数を全て連続的に呼び出す方法

メモリースキャン機能を使います。

メモリースキャン機能とは、メモリーされた周波数を連続的に呼び出す機能です。

メモリースキャン動作を一時停止するには、M. SCN ボタンをもう一度押してください。

一時停止中は、ドットの点滅する間隔が早くなります。

AX700B のスキャン方式については、アドバイス を参照してください。

手順

①VFO 状態の時 M. SCN ボタンを押すとメモリースキャン動作になります。

メモリーアドレス番号と M が順次表示され且つ、バンドスコープに Memory Scan. と表示されます。メモリースキャン動作の時は、MHz および kHz のドットが点滅して知らせます。

②メモリースキャン動作を解除するには、CCL ボタンまたは、BS/M. SFT、又は ENT/MW ボタンを押します。

CCL ボタンで解除する場合は、メモリースキャンに入る前の状態に戻ります。

BS/M. SFT 又は、ENT/MW ボタンで解除する場合は、メモリースキャン中の周波数で VFO に戻ります。

アドバイス

1. メモリーされていないアドレス番号はスキップします。

2. スキャンおよびサーチ停止方式には、次の 4 種類があります。

1) P. S : 信号を受信し一旦スキャンが停止してから約 5 秒後または信号がなくなると再びスキャンを開始します。

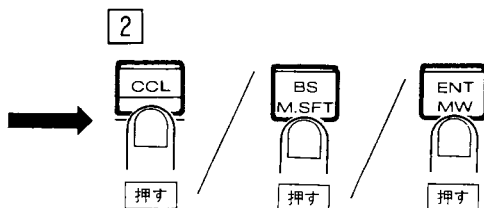
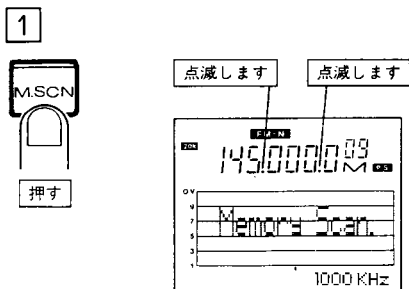
2) A. D : スピーカーからの音がなくなってから約 2 秒後または、信号がなくなると再びスキャンを開始します。

3) HOLD : 信号を受信してから約 2 秒後にスキャンが停止します。

4) DLY : 信号が無くなってから約 2 秒後にスキャンを開始します。

スキャン停止方式を変更する時は、P. SER 又は、M. SCN ボタンを押してサーチ又は、スキャン動作にして MODE ボタンを押す (P. S、A. D、HOLD、DLY が順次表示されます) ENT/MW ボタンを押すと変更できます。

この時、ENT/MW ボタンを押さないと一時的な変更になります。



メモリー周波数の変更方法

メモリー周波数の変更は次の手順で行ってください。

手順

①MR ボタンを押して数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルツマミ、およびUP/DOWNボタンで変更したいメモリーアドレス番号を呼び出します。

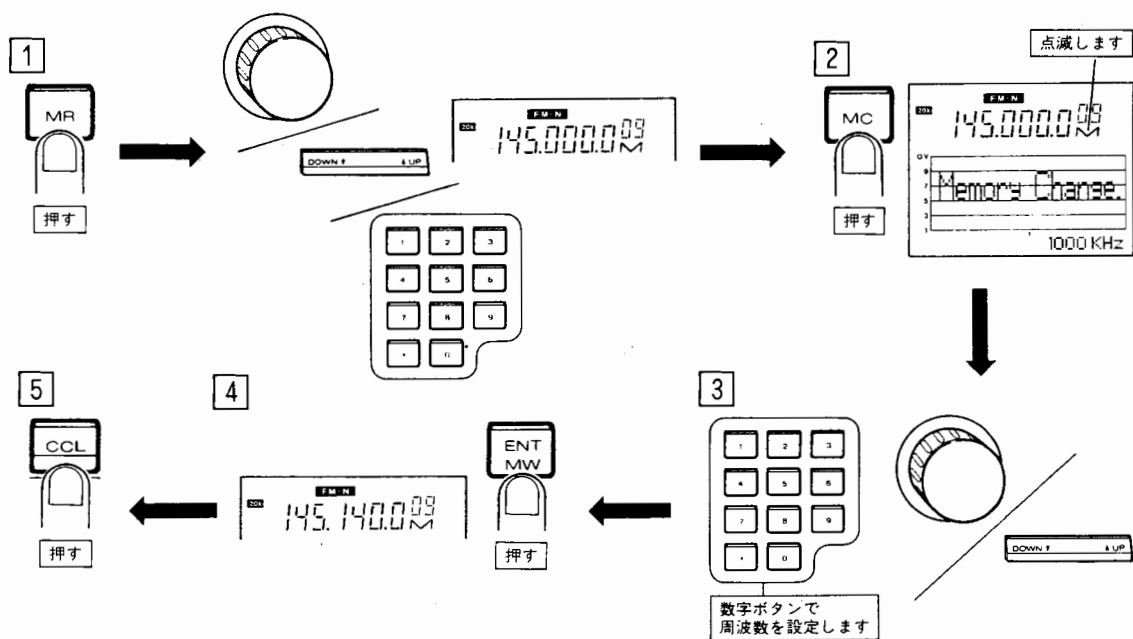
②MC ボタンを押します。

表示部のMが点灯から点滅に変わり且つ、バンドスコープにMemory Change.と表示されます。

③数字ボタン、ロータリーチャンネルセクターツマミおよびUP/DOWNボタンにて周波数を変更してください。

④ENT/MWボタンを押すと、ピーというブザー音がして、周波数の変更が完了します。

⑤CCLボタンを押してVFO状態にします。



メモリー周波数の消去方法

メモリー周波数の消去は次の手順で行ってください。

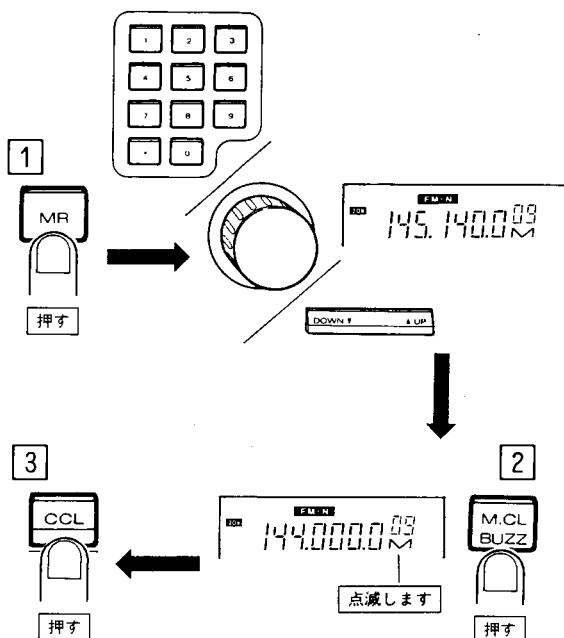
手順

①MR ボタンを押した後、数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルセクターツマミ、および UP/DOWNボタンで消去したいメモリーアドレス番号を呼び出します。

②M. CLボタンを押します。

表示部のMが点灯から点滅に変わり且つ、表示周波数は、メモリー呼び出し状態にする前の周波数が表示されます。

③CCLボタンを押しVFO状態にします。



メモリー呼び出し周波数を、そのままVFO周波数にする方法

手順

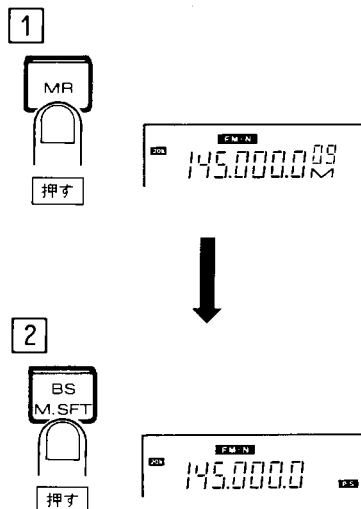
①MRボタンを押しメモリー呼び出し状態にします。

②BS/M. SFTボタンを押すとメモリー周波数がそのままVFO周波数になります。

アドバイス

1. メモリー呼び出し状態からCCLボタンを押すと、メモリー呼び出し状態にする前の周波数になります。

2. メモリー呼び出し状態からBS/M. SFTボタンを押すと、表示されている周波数のまま、VFO状態になります。



メモリーした周波数の中から特定の周波数をスキャンするには

MS. M機能を使用します。

MS. Mをメモリー・スキャン・メモリーといいます。

MS. M動作をする場合は、MS. M動作されるアドレス番号を指定しておきます。

使用するボタン

MR : メモリー呼び出し状態にします。

AJ/MS. M : メモリースキャンする周波数（アドレス番号）の設定および解除

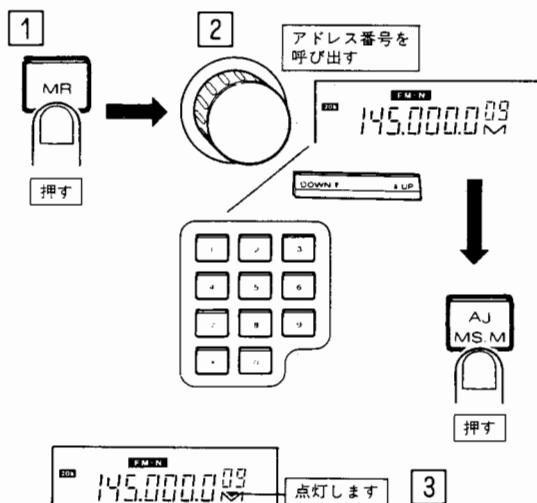
数字ボタン : アドレス番号の呼び出し

ロータリーチャンネルツマミ : アドレス番号の呼び出し

1. メモリースキャンする周波数(アドレス番号)を設定します。

手順

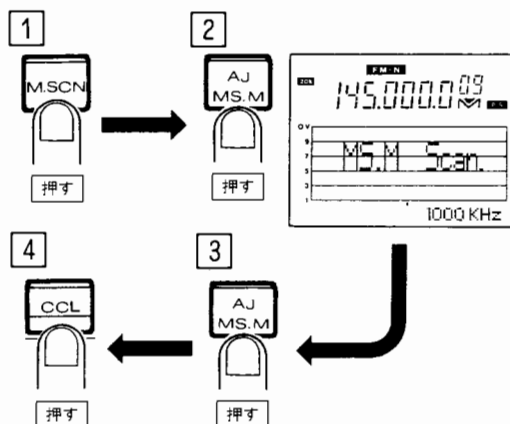
- ①MRボタンを押しメモリー呼び出し状態にします。
- ②メモリースキャン・メモリーを行うアドレス番号を呼び出します。
- ③AJ/MS. Mボタンを押すと、Mの上に▼が点灯します。
- ④これで設定完了です。
- ⑤CCLボタンを押すと元のVFO状態に戻ります。



2. メモリー・スキャン・メモリー動作方法

手順

- ①M. SCNボタンを押してメモリースキャン動作にします。
- ②メモリースキャン動作中に、AJ/MS. Mボタンを押すとメモリースキャン・メモリー動作になります。
表示部には、MS. M Scan.の文字が表示されます。
- ③メモリースキャン・メモリー動作中に、もう一度AJ/MS. Mボタンを押すとメモリースキャン・メモリー動作が解除され、Memory Scan. が表示されメモリースキャン動作になります。
- ④メモリースキャン動作または、メモリースキャン・メモリー動作を解除する時は、CCLボタンを押してください。メモリースキャン・メモリー動作になる前の周波数に戻ります。



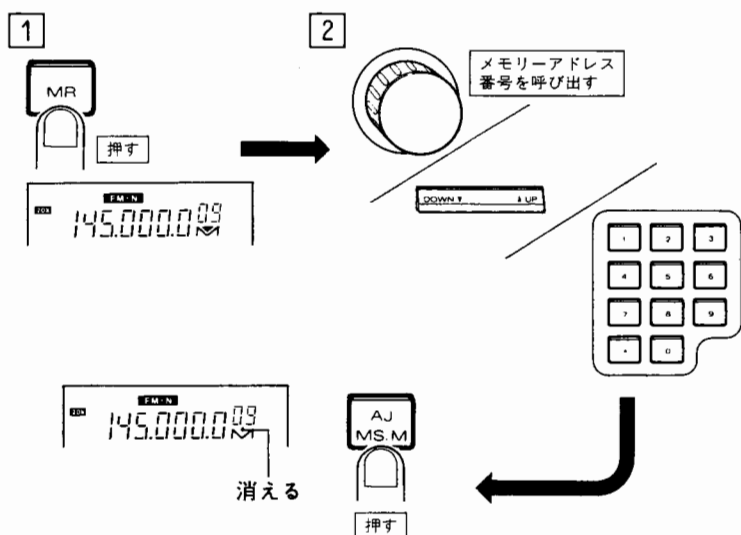
3. メモリー・スキャン・メモリー周波数の解除方法

手順

- ①MR ボタンを押します。

表示部にメモリーアドレス番号と、Mが表示されます。

- ②解除したいメモリーアドレス番号を呼び出し、AJ/MS. M ボタンを押すと▼が消えメモリースキャン・メモリー周波数でなくなります。



特定の周波数範囲を自動的にサーチし、聞きたい周波数(電波)を選び出す方法

サーチ動作について

- 1)特定の周波数範囲内で信号の有無を調べる場合は、スキャン機能とは別にサーチ機能を使用します。サーチ機能動作を行う時は、周波数範囲を指定する必要があります。
- 開始周波数をスタート周波数、終了周波数をエンド周波数といい、この2つ周波数を最初にサーチ用アドレス番号に設定しておく必要があります。このスタート周波数およびエンド周波数は、自由に変えることができます。
- 2)サーチ動作のアドレス番号はメモリアドレ

- ス番号と区別する為Px表示となります。但しxは任意の番号を意味しています。
- サーチ用アドレス番号はP0からP9までの10種類ありますので、10種類の周波数範囲を設定することができます。
- 3)主な使用例として次のように設定しておくとう便利です。
- サーチ用アドレス番号P0にはアマチュアバンド、P1にはパーソナルバンド、P2にはマリンバンド、P3にはエアーバンドのように設定して使用できます。

サーチ動作使用例

アドレス番号	バンド	設定周波数		サーチ範囲
		スタート周波数	エンド周波数	
P0	アマチュア	144.000.0	146.000.0	144.000より146.000までをサーチします。
P1	アマチュア	430.000.0	440.000.0	430.000より440.000までをサーチします。
P2	パーソナル	903.000.0	904.995.0	903.000.0から904.995.0までをサーチします。
P3	マリン	156.000.0	164.000.0	156.000.0から164.000.0までをサーチします。
P4	エアー	118.000.0	136.000.0	118.000.0から136.000.0までをサーチします。
P5		設定しない	設定できません	表示周波数から全周波数をサーチします。

サーチ機能について

種類	設定周波数		サーチ機能
	スタート周波数	エンド周波数	
1	144.000.0	146.000.0	144.000より146.000までをサーチします
2	80.000.0	70.000.0	80.0000よりスタートし70.0000までサーチし70.0000から80.0000までをスキップする
3	100.000.0	設定しない	100.0000よりスタートし全バンドをサーチする
4	設定しない	設定できない	表示周波数から全バンドをサーチする

種類2でサーチ動作をしている時のUP/DOWNのボタンの働きは下記ようになります。

50.000.0から69.00.0までをサーチしている時は、

UPボタンが有効になります。

81.000.0から904.995.0までをサーチしている時は、DOWNボタンが有効になります。

サーチ動作例

(アマチュアバンドをサーチする方法)

購入されて初めてサーチ操作する場合。または、リセット操作を行ったあとサーチ操作する場合。

アマチュアバンドをサーチする準備を行います。

表示部に下記内容を表示されます。

● スタート周波数：144.000.0

数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクトーツマミまたは、UP/DOWNボタンを押してスタート周波数を表示させます。

● チャンネルステップ：STEPボタンを押して表示部に20kHzを表示させます。

● 受信モード：FM-N初期値のまま

● バンドスコープの受信周波数幅：1000kHz 初期値のまま

周波数範囲の設定方法

スタート周波数を登録します。

手順

①MR ボタンを押してメモリー呼び出し状態にします。

②更に P. SER ボタンを押してサーチ用アドレス番号を呼び出します。

バンドスコープ上に Start Freq. の表示とメモリーアドレス番号 Px と M が表示されます。

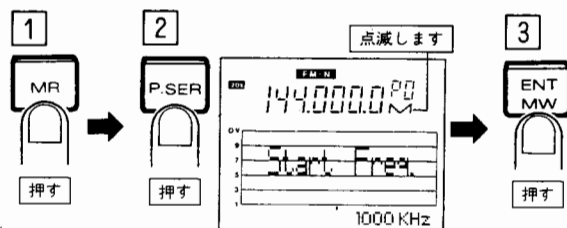
1)すでに周波数が登録されている場合Mは点灯しています。

2)以前にメモリー呼び出し状態にしたことがある場合、メモリーアドレス番号は、以前呼び出したメモリーアドレス番号が表示されます。

③周波数が登録されていない場合は、ENT/MW ボタンを押します。

(144.000.0がスタート周波数として設定されました)

周波数が既に登録されている場合、MC ボタンを押して内容を変更してください。



エンド周波数を登録します。

①続いて、UPボタンを押します。

バンドスコープ上に End Freq. と表示されます。

②MC ボタンを押します。

バンドスコープ上の表示が End Change. と表示されます。

③エンド周波数の146.000.0を数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクトーツマミおよびUP/DOWNボタンにて設定し ENT/MW ボタンを押します。

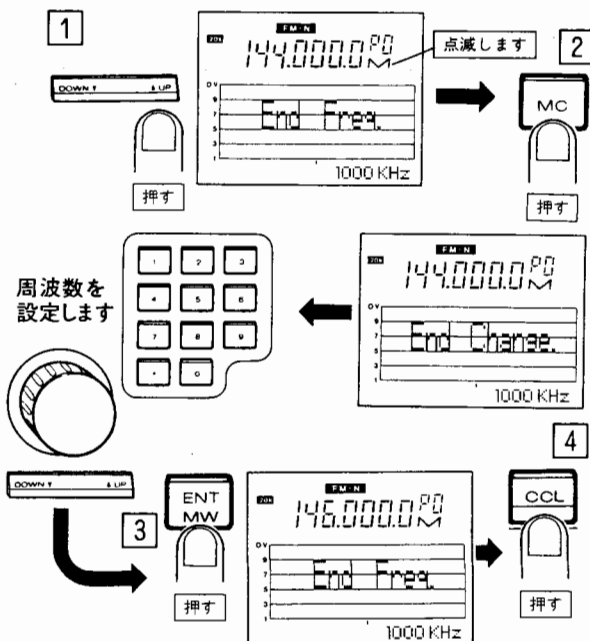
設定が終わると、ピーというブザー音と同時にバンドスコープ上の表示が End Freq. に変わります。

④CCLボタンを押してVFO状態にします。

以上でサーチ動作の準備完了です。

上記の設定がなされている状態で次項の操作を行うと、サーチ動作になります。

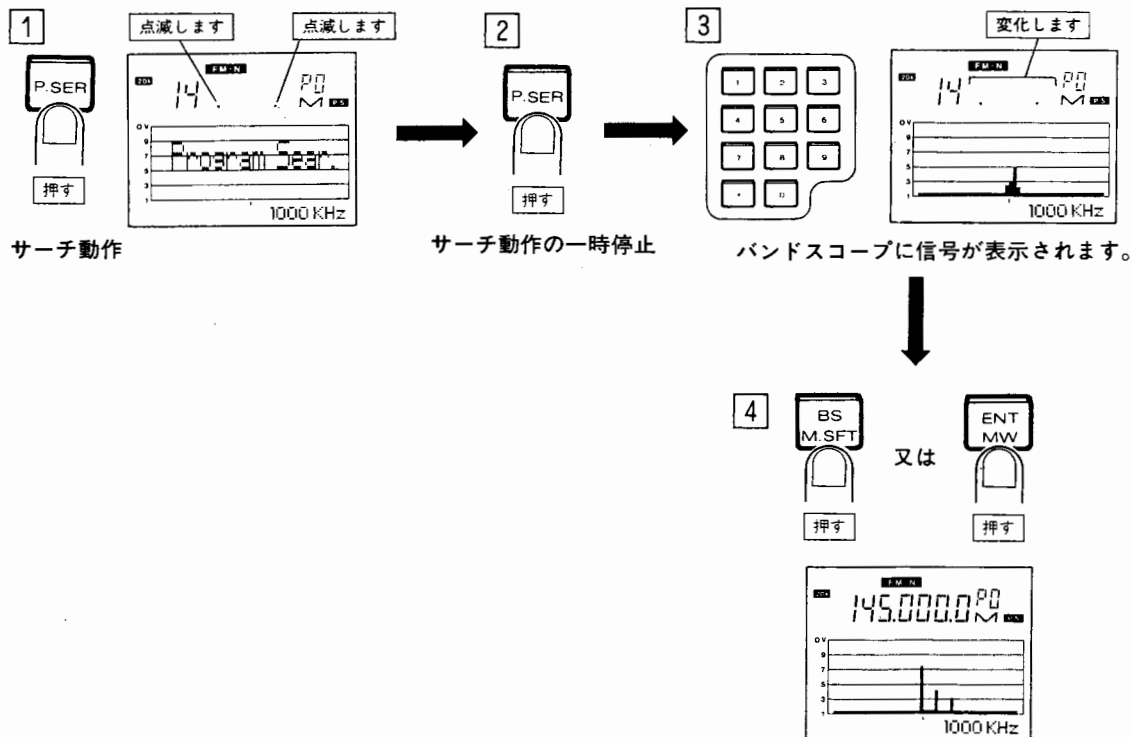
注意 スタート周波数が設定されていないと、エンド周波数の設定はできません。



サーチ動作の方法

手順

- ① P. SER ボタンを押すとサーチ動作になり順次周波数が変化してゆきます。
表示部に Px と M およびバンドスコープに Program Sear. と表示されます。
この時表示部の MHz 台および kHz 台のドットが点滅します。
- ② サーチするバンドを変更するときは、サーチしたいバンドが登録されているアドレス番号と同じ数字ボタンを押して下さい。
- ③ サーチ動作を一時停止する時は、もう一度 P. SER ボタンを押してください。
サーチ動作が一時停止します。
- ④ 表示部に表示されているサーチ用アドレス番号と同じ数字ボタンを押すと、サーチ動作状態のままバンドスコープ上の Program Sear. が消え、バンドスコープ動作になり、信号が目で確認できます。



⑤ BS/M. SFT 又は、ENT/MW ボタンを押すとサーチ動作が解除され、BS/M. SFT 又は、ENT/MW ボタンを押した時の周波数で受信状態になります。

⑥ CCL ボタンを押すと、サーチ動作が解除されサーチ動作に入る前の状態に戻ります。

アドバイス

MC ボタンは、メモリー周波数の書き換え(変更)を行う時、使用するボタンです。

Start Freq. が表示されている時押すと Start Change. End Freq. が表示されている時押すと End Change. が表示されます。

メモリー周波数呼び出しの時押すと Memory Change. が表示されます。

Program Sear. が表示されている時 P. SER ボタンを押すと、サーチ動作が一時停止します。

一時停止中は、MHz 台および kHz 台のドットの点滅間隔が短くなります。

もう一度押すと一時停止が解除されます。

周波数範囲の変更方法

スタート周波数を変更する場合

手順

①MR ボタンを押します。

メモリーアドレス番号と、Mが表示されます。

②P. SERボタンを押します。

③数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルセクターツマミで変更しようとする周波数のアドレス番号を呼び出します。

バンドスコープには、Start Freq.が表示されます。

④MC ボタンを押します。

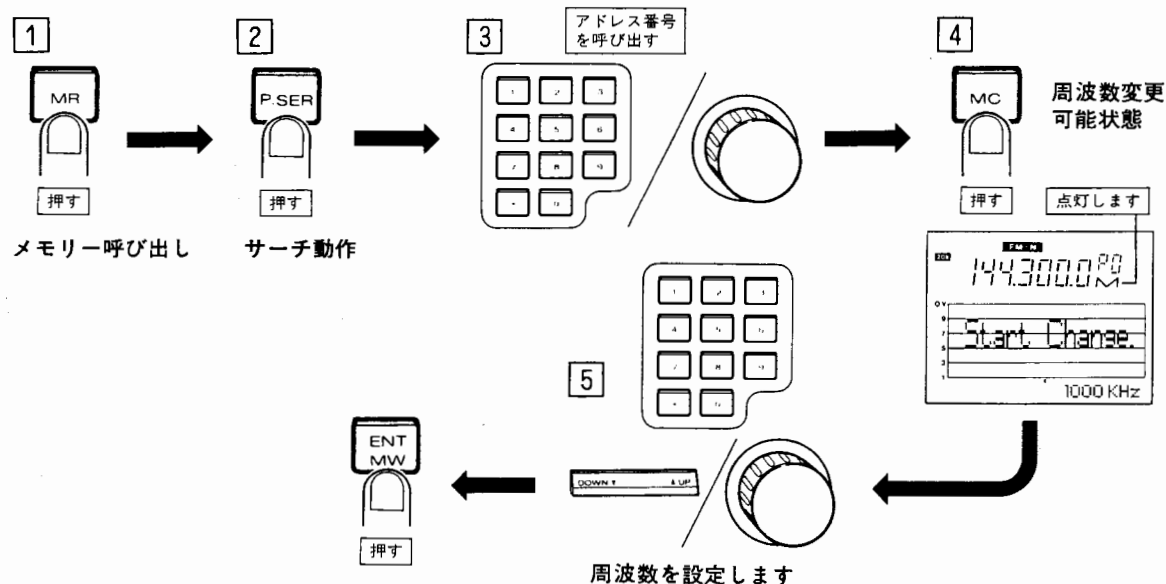
バンドスコープには、Start Change.が表示され

ます。

スタート周波数の変更可能状態を表します。

⑤数字ボタン、ロータリーチャンネルセクターツマミおよびUP/DOWNボタンで新しい周波数を設定し、ENT/MWボタンを押します。ピーというブザー音がしてスタート周波数の書き換え完了を知らせると同時にStart Change.がStart Freq.に変わります。

⑥CCLボタンを押しVFO状態にもどしてください。



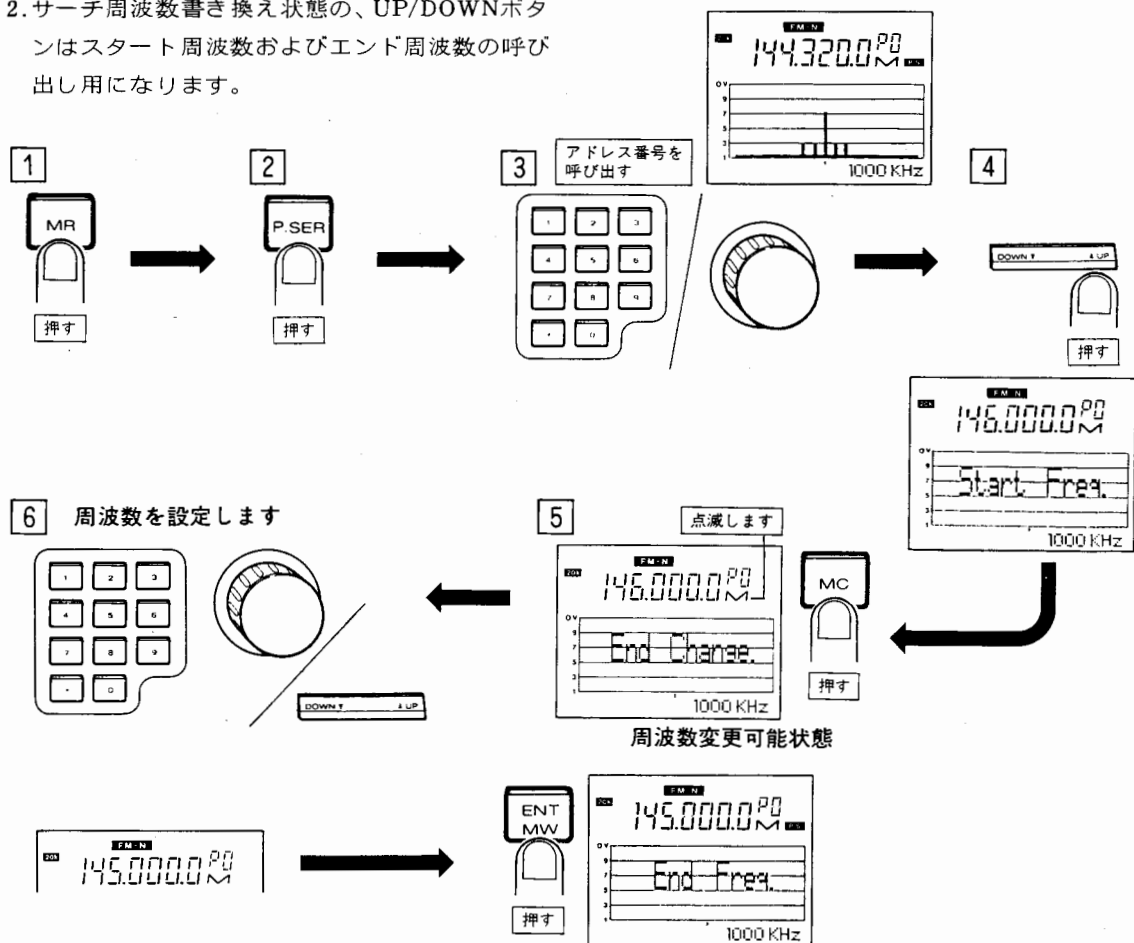
エンド周波数を変更する場合

手順

- ①MR ボタンを押します。
メモリアドレス番号と、Mが表示されます。
- ②P. SERボタンを押します。
バンドスコープには、Start Freq.が表示されます。
- ③数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルセレクトツマミで、変更しようとする周波数のアドレス番号を呼び出します。
- ④UPボタンを押します。バンドスコープの、Start Freq.がEnd Freq.に変わります。
- ⑤MC ボタンを押します。
バンドスコープには、End Change.が表示されます。
エンド周波数の変更可能状態を表します。
- ⑥数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクトツマミおよびUP/DOWNボタンで新しい周波数を設定し、ENT/MWボタンを押します。ピーというブザー音がしてエンド周波数の書き換え完了を知らせると同時にEnd Change.がEnd Freq.に変わります。
- ⑦CCLボタンを押しVFO状態にもどしてください。

アドバイス

1. DOWNボタンを押すと、Start Freq.とバンドスコープに表示され、スタート周波数が表示されます。
2. サーチ周波数書き換え状態の、UP/DOWNボタンはスタート周波数およびエンド周波数の呼び出し用になります。



周波数範囲の消去方法

手順

- ①MR ボタンを押します。
- ②P. SERボタンを押します。
- ③数字ボタンおよびロータリーチャンネルセレクトツマミにて、変更しようとする周波数のアドレス番号を呼び出します。
バンドスコープには、Start Freq.が表示されます。
- ④UPボタンを押します。バンドスコープの、Start Freq.がEnd Freq.に変わります。
スタート周波数を消去する場合は、UPボタンを押す必要はありません。

- ⑤M. CLボタンを押します。

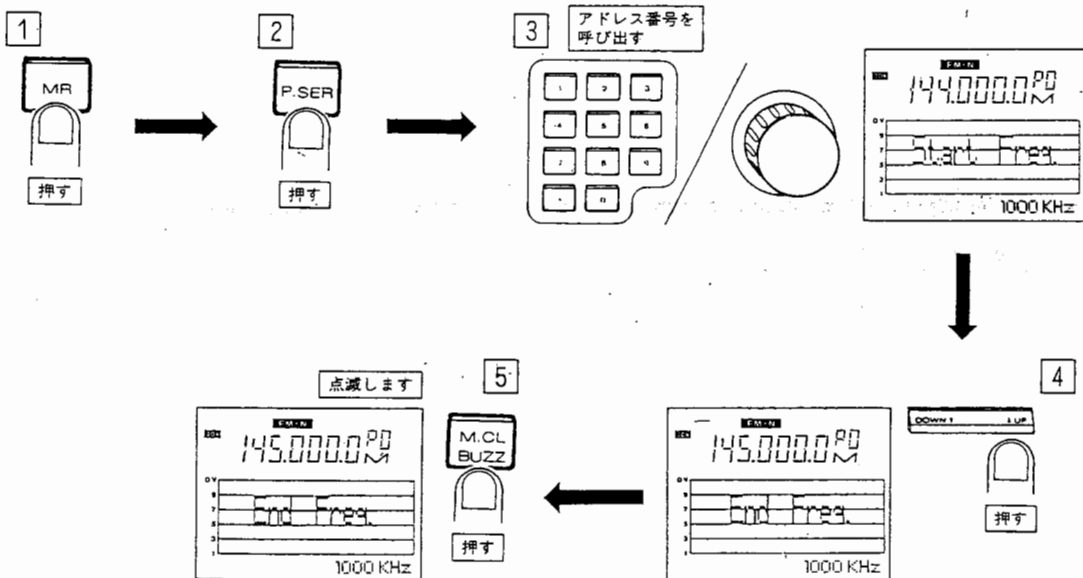
ピーというブザー音がしてエンド周波数が消去されます。

点灯してたMが点滅に変わります。

- ⑥CCLボタンを押しVFO状態にもどしてください。

注意

Start Freq.の内容を消去すると、End Freq.の内容も消去されます。End Freq.のみの消去は可能です。



サーチ動作の種類について

サーチ機能を使用して聞きたい電波を選び出す方法が4種類あります。

1. 指定した周波数間をサーチする方法

(Program Sear.と表示されます)

サーチ用アドレス番号にスタート周波数とエンド周波数を登録して行います。

2. 指定した周波数間を除いた部分をサーチする方法

(Program Sear.と表示されます)

スタート周波数をエンド周波数より高い周波数に設定して行います。

3. 表示されている周波数(VFO周波数)から受信可

能な周波数、全てをサーチする方法

(Normal Sear.と表示されます)

サーチ用アドレス番号の一つに何も周波数を登録しないで、そのアドレス番号を表示させサーチ動作にすると、受信可能な周波数を全てをサーチします。

4. 指定した周波数から受信可能な周波数、全てをサーチする方法

(Program Sear.と表示されます)

サーチ用アドレス番号にスタート周波数のみ登録しておき、エンド周波数は登録しないでください。

その他の機能

周波数の自動補正について

数字ボタンで周波数を設定する場合、設定されているチャンネルステップによって、周波数表示が自動的に補正されます。また 表示されて

いる周波数から、あるチャンネルステップでロータリーチャンネルセクターツマミおよびUP/DOWNボタンを押した時、周波数表示が自動的に補正されます。

リチウム電池について。

AX700B には、マイコンのバックアップ電源用として、リチウム電池を内蔵していますので、電源スイッチをOFFにしても記憶回路にメモリーされた内容を記憶しています。

リチウム電池が消耗すると、電源スイッチをONに

したときに表示周波数が正しく表示されません。このような時は、新しいリチウム電池に交換し、必ず後面にあるRESETボタンを押してください。リセットボタンを押すと、メモリーされている内容が全て消去されます。

故障とお考えになる前に

Q 周波数が正しく表示されない。

リチウム電池が消耗した時、リチウム電池を交換した後およびマイコンが誤動作した場合、周波数が正しく表示されない時があります。

A 新しいリチウム電池に交換して下さい。交換後にAX700後面のRESETボタンを押して下さい。

RESETボタンを押す時は、電源スイッチをONの状態で行ってください。

Q 電源スイッチをON、OFFする毎に、周波数表示がおかしくなる。

A リチウム電池が消耗しています。新しいリチウム電池に交換しリセットボタンを押して下さい。

Q 信号(電波)を受信しない。

スケルチツマミが時計方向に回し切ってありませんか。

A スケルチツマミを一度反時計方向に回し切った後、ゆっくり時計方向に回しザー音が消えた所でまわすのを止めてください。
(SQL調整完了です)

Q 音が出ない。

1. 音量ツマミが左に回し切ってありませんか。
2. 音が出ない周波数帯になっていませんか。

A 1. 音量ツマミをお好みの音量になるまで右に回して下さい。
2. 音が出ない周波数帯については9ページをご参照ください。

Q バンドスコープ上に黒い線が多く出ていて、電波(信号)が受信できない。

パソコン、OA機器およびワープロ等の近くで使用すると、これらの機器から発生するノイズで電波障害を受けます。

A パソコン、OA機器およびワープロ等から離して使用してください。

Q チャンネルステップの切り替えができない。 (STEPボタン)

表示部にAJが表示されているときは、STEPボタンは無効になります。

A AJ/MS.Mボタンを押して、AJの表示を消して下さい。

Q FM放送の音が極端に歪む

FM放送は、FM-Wを表示させ使用してください。

A MODEボタンを押して、表示部にFM-Wを表示させて使用してください。

Q スキャン方式が変更できない。

スキャン方式の変更は、メモリースキャン動作の時のみ変更できます。

A M. SCNボタンを押しメモリースキャン動作にした後、MODEボタンを押すと、スキャン方式の変更ができます。

定格

受信周波数範囲	50～904.995MHz
電波型式	A3E(AM) F3E(FM-Wide、FM-Narrow)
アンテナインピーダンス	50Ω
周波数ステップ	10kHz、12.5kHz、20kHz、25kHz (AJ モード 1kHz、UP/DOWNスイッチ5kHz)
メモリーチャンネル数	100ch
プログラムサーチメモリー数	10ch
受信感度	AM(10dB S/N) 3μV以下 FM-N(12dB SINAD) 1.5μV以下 FM-W(12dB SINAD) 1μV以下(83MHzにて)
スケルチ感度(FM-N モード)	0.2μV以下
オーディオ出力	外部スピーカー端子 1.8W以上 (8Ω、歪率10%、入力信号FM1kHz±3.5kHz DEV) REC 端子 30mV(負荷100kΩ)
8 V 出力端子	8V 40mA MAX.
電源	DC13.8V ±15%
消費電流	1A(オーディオ出力2W時)
接地方式	マイナス接地
使用温度範囲	0℃～+50℃
寸法	180(W)×75(H)×180(D)mm(突起物含まず)
重量	2.1kg(アンテナ・スタンド含む)

保証・アフターサービスに付いて

1. この商品には保証書を添付してあります。

保証書は「販売店・保証期間」をご確認のうえ、販売店からお受取いただき、よくお読みのうえ、大切に保存してください。

2. 保証期間はご購入日より1年間です。

正常なご使用状態で、この期間内に万一故障の際は、ご購入販売店または弊社営業所で保証

記載事項に基づき「無償修理」致します。

3. 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望によって有償修理致します。

4. 補修用部品の詳細・ご転居などアフターサービスについての不明点は、ご購入販売店または別紙の弊社営業所に遠慮なくご相談ください。

日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

ご注意：お問合せは日本マランツ(株)各営業所で承っております
ので全国営業所一覧をご覧ください。